

佐藤正志 [履歴および研究業績]

学歴

- 1976年3月 広島大学 政経学部 経済学科 卒業
1980年3月 広島大学大学院 経済学研究科経済学専攻 修士課程 修了
2001年3月 岡山大学大学院 文化科学研究科人間文化学専攻 博士課程 (博士後期課程) 修了

学位

1. 経済学修士 (広島大学) [学位論文「両大戦間期日本資本主義の構造変化—電気事業の分析視点から—」1980年3月]
2. 博士 (経済学) (岡山大学) [学位論文「両大戦間期における農村社会の変容と農会」2001年3月]

職歴 (役職)

- 1980年4月 村崎学園 徳島文理高校 教諭 (～1989年3月)
1989年4月 九州共立大学経済学部 講師 (～1992年3月) 助教授 (1992年4月～1995年3月)
1995年4月 摂南大学 経営情報学部 経営情報学科 助教授 (～2002年3月)
2002年4月 摂南大学 経営情報学部 経営情報学科 教授 (～2017年3月)
2005年4月 摂南大学大学院 経営情報学研究科 経営情報学専攻 博士課程 教授
2016年4月 摂南大学 学生部長、スポーツ振興センター長 (～2020年3月)
2018年4月 摂南大学 経営学部特任教授 (～2021年3月)

所属学会

- 社会経済史学会 (1981年10月～、理事2015年1月～2018年1月、中国四国部会理事2009年～)
経営史学会 (1989年4月～)
日本経営学会 (1993年5月～)
日本農業史学会 (1997年3月～、理事1999年4月～)

社会活動

- 財団法人日本私学教育研究所 委託研究員 (1988年4月～1989年3月)
徳島県近代化遺産調査指導委員会委員 (徳島県教育委員会) (2004～2005年度)
徳島県近代和風建築総合調査 調査指導委員会委員 (徳島県教育委員会) (2011～2012年度)
「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会委員 (徳島県) (2015～2018年度)

【研究業績】

単著

『農村組織化と協調組合』御茶の水書房、1996年11月（九州共立大学地域経済研究所刊行、1994年3月の改訂再版）

共著 [執筆分担内容]

1. 広島県編『広島県史 近代1』広島県、1980年3月 [近代産業の発達、電気事業]
2. 徳島地方史研究会創立10周年記念論集刊行委員会編『阿波・歴史と民衆』南海ブックス、1981年1月 [明治期上板地方における糖業経営（立石恵嗣・小笹泰史との共著）]
3. 広島県編『広島県史 近代2』広島県、1981年3月 [第一次大戦の勃発と産業経済、電気・ガス事業の発展]
4. 徳島市史編さん室編『徳島市史 第3巻・産業経済編 交通通信編』徳島市教育委員会、1983年3月 [勸業政策と地域開発計画、電気事業]
5. 広島県『広島県史 現代』広島県、1983年3月 [高度経済成長の展開]
6. 『徳島の研究5 近世近代篇』清文堂出版、1983年4月 [阿波の糖業史 中川虎之助と彼の糖業政策論]
7. 三好昭一郎先生還暦記念論集刊行委員会『歴史と文化・阿波からの視点』第一出版、1989年8月 [大正末～昭和初期における撫養の塩田経営―塩田争議の経済的背景として―]
8. 徳島地方史研究会創立20周年記念論集刊行委員会『阿波・歴史と民衆Ⅱ』徳島地方史研究会、1990年3月 [小作争議の展開と協調組合―徳島県那賀郡見能林村を中心に―]
9. 『徳島の百年 県民100年史36』山川出版社、1992年3月 [徳島の近代化と民衆、近代化する徳島の産業、大正デモクラシーと徳島県、産業交通の発展と社会運動、十五年戦争と徳島県、戦後史のはじまり、高度成長と徳島県、電源開発と工場誘致、高度成長の光と影、年表、参考文献]
10. 『図説 徳島県の歴史』河出書房新社、1994年11月 [辰巳と橘湾―地域開発・混迷の二〇年]
11. 西日本文化協会編纂『福岡県史 近代研究編 各論(二)』福岡県、1996年3月 [安川・松本財閥における労使協調経営―安川敬一郎の経営理念と明治鉱業信和会―]
12. 三木安平氏古希記念論集刊行委員会『史料の輝き 阿波徳島の歴史とともに』同刊行委員会、1996年3月 [徳島県における小作争議の展開と地主的土地所有]
13. 地方史研究協議会編『半島・海と陸の生活と文化』雄山閣、1996年10月 [九州出漁と半島漁民―徳島県那賀郡椿泊の以西底曳網出漁を中心に―]
14. 徳島地方史研究会創立30周年記念論集刊行委員会編『阿波・歴史と民衆Ⅲ』刊行委員会、2000年3月 [戦間期の農民運動―四国における展開―]
15. 向島町史編さん委員会編『向島町史』広島県御調郡向島町、2000年3月 [大正期から現代までの向島の農業・漁業史を担当。養蚕、除虫菊や柑橘などの特産品の盛衰を中心]

に執筆]

16. 神野慧一郎編『社会の歴史変動とエートスとの関係についての研究 平成12年度研究成果中間報告』摂南大学経営情報学部、2001年4月〔経営発展とエートス〕
17. 阿南市史編さん委員会編『阿南市史 第3巻(近代編)』阿南市教育委員会事務局、2001年6月〔第一次世界大戦と社会の動き、戦争と阿南市域の町村〕
18. 摂南大学経営情報学部編『経営学ガイダンス』中央経済社、2004年4月〔これからの経営と企業経営者〕
19. 『地方史研究の可能性—神立春樹研究室の研究活動—』西日本法規出版、2004年4月〔農会の農産物販売斡旋事業と出荷組合〕
20. 経営史学会編『日本経営史の基礎知識』有斐閣、2004年10月〔電力戦とその帰結〕
21. 『徳島県の近代化遺産—徳島県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書—』徳島県教育委員会、2006年3月〔総説 徳島県の近代化〕
22. 阿南市史編さん委員会編『阿南市史 第4巻』阿南市教育委員会事務局、2007年12月〔現代阿南の歩み 戦後社会と民主化の道、阿南市の誕生、町村合併の経緯、阿南市政の機構と行財政の変遷、那賀川町・羽ノ浦町との合併協議、戦後社会の変化、高度経済成長期を経た地域経済、阿南市の社会変化〕
23. 日本経営学会編『企業経営の革新と21世紀社会(経営学論集78集)』千倉書房、2008年9月〔明治期における企業家の形成と人的ネットワーク—興産社・阿部興人と蜂須賀茂韶を中心に—〕
24. 摂南大学経営学部『学部教育実践の記録・経営事例研究 トヨタの経営研究』同学部、2010年4月〔「経営事例研究」について—経緯と実践—、講義ノート・トヨタの歴史的発展と現在、そして明日〕
25. 徳島地方史研究会編『阿波・歴史と民衆Ⅳ 生業から見る地域社会：たくましき人々』教育出版センター、2011年1月〔1930年代における農家副業の展開と農村女性の組織化〕
26. 徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会編『徳島平和ミュージアムプロジェクト報告書』徳島県立博物館、2011年3月〔戦時体制の進展と徳島の農村女性〕
27. 四国地域史研究連絡協議会編『戦争と地域社会：慰霊・空襲・銃後』岩田書院、2011年11月〔地域戦時体制の進展と徳島の農村女性(再録)〕
28. 『学部教育実践の記録・経営事例研究 酒造産業の経営研究』摂南大学経営学部、2013年3月〔講義ノート、関西の酒造産業〕
29. 『歴史読本』編集部編『満洲国を動かした謎の人脈』共著、2015年8月、株式会社KADOKAWA〔高度経済成長を支えた満洲国の遺産〕
30. 三好昭一郎先生米寿記念論文集刊行会『阿淡郷土史の研究 その成果と課題をめぐって』論集刊行会、2017年1月〔戦前期における「観光地・鳴門」の成立〕
31. 「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会『「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査報告書—文化編—』徳島県、2017年3月〔「観光地・鳴門」の形成・発展とメディア〕

32. 徳島県教育委員会編『徳島県の近代和風建築—徳島県近代和風建築総合調査書—』徳島県教育委員会、2013年3月〔徳島県の近代〕
33. 「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査委員会『「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査報告書 文化編 vol.2』2019年4月〔鳴門要塞と淡路鉄道〕
34. 『徳島市史 第6巻 戦争編・治安編・災害編』徳島市教育委員会、2020年3月〔徳島藩から名東県・徳島県へ、歩兵第12連隊、歩兵第43連隊、軍閥連組織・団体、市民生活の安全、大正デモクラシーと社会運動の高揚〕
35. 『徳島地方史研究会創立50周年記念論集（仮称）』（2021年3月刊行予定）〔徳島の花街と芸娼妓—地域社会の「まなざし」とそれへの抗い—〕

論文

1. 「戦間期における電気事業の発展」『社会経済研究』第6号、広島大学大学院、1979年5月
2. 「両大戦間期における電気事業の発展過程 —広島県下の電力資本の具体的分析と電力国家管理への移行について—」『徳島文理中高等学校研究紀要』第1号、徳島文理中高等学校、1980年11月
3. 「阿波三盆糖の歴史的研究」（立石恵嗣・小笹泰史との共著）『郷土研究発表会紀要第27号（総合学術調査 上板町）』徳島県立図書館、1981年3月
4. 「阿波三盆糖の歴史の考察 —地域史学習教材の一素材として—」（立石恵嗣・小笹泰史との共著）『昭和55年度康楽会賞論文集（徳島県幼稚園・小学校・中学校・高等学校教育論文）』財団法人康楽会、1981年4月
5. 「戦後恐慌期における広島県下の電気料金値下げ運動の展開（上）」『社会経済研究』第8号、広島大学大学院、1981年11月
6. 「中川虎之助と糖業政策論」『史窓』第12号、徳島地方史研究会、1982年1月
7. 「高度経済成長期の地域経済 —徳島県における地域開発の展開—」『徳島文理中高等学校研究紀要』第4号、1982年11月
8. 「西尾の小作争議」『郷土研究発表会紀要30（総合学術調査 鴨島町）』徳島県立図書館、1984年5月
9. 「昭和恐慌期における徳島県の小作争議」『史窓』第15号、徳島地方史研究会、1984年12月
10. 「徳島県における地主小作人協調団体の成立 —その意義と限界—」『史窓』第16号、徳島地方史研究会、1985年12月
11. 「鞆浦の網元制度について —解体期を中心として—」『郷土研究発表会紀要33（総合学術調査 海部町）』徳島県立図書館、1987年5月
12. 「地域史の学習教材化について —阿波の塩業史をテーマとして—」『日本私学教育研究所紀要』第25巻第2号、1989年12月
13. 「協調組合の成立と展開 —徳島県の事例を中心として—(1)(2)(3)」『九州共立大学紀要』

- 第46・50・54号、九州共立大学経済学会、1990年3月・1992年8月・1994年12月
14. 「安川敬一郎の経営理念—労資協調思想の一端—」『九共経済論集17(九州特集号)』九州共立大学地域経済研究所、1993年1月
 15. 「安川・松本財閥における労使協調経営—明治鉱業信和会の成立と機能—」『広島大学経済論叢』第17巻第1号、広島大学、1993年7月
 16. 「以西底曳漁業経営の現状」(仲村隆文と共著)『九共経済論集』第21号、九州共立大学地域経済研究所、1995年3月
 17. 「戦前期における以西底曳網漁業経営の展開」『経営情報研究』第3巻第2号、摂南大学、1996年2月
 18. 「農会の農産物販売斡旋事業と出荷組合—徳島県那賀郡山口出荷組合の事例を中心に—」『岡山大学大学院文化科学研究科紀要』第7号、1999年3月
 19. 「農会による市場競争の展開—徳島県農会の『阿波筍』販売斡旋事業を中心に—」『経営情報研究』第11巻第2号、2004年2月
 20. 「徳島県人の北海道移住と蜂須賀農場」『徳島県文書館研究紀要』第5号、2005年3月
 21. 「北海道移住と藍作の展開—興産社を中心に—」(概説(シンポジウム)歴史の転換期における藍)『農業史研究』第41号、2007年3月
 22. 岸信介と『満洲経営』—最近の研究動向・言説と課題—(張志祥と共著)『経営情報研究』第17巻第1号、2009年10月
 23. 「地域ブランドの開発と展開—徳島県産『阿波尾鶏』の事例から—」『経営情報研究』第20巻第2号、摂南大学、2013年2月
 24. 「革新官僚・岸信介の思想と行動—『自動車産業政策』を中心に—」『経営情報研究』第21巻第2号、摂南大学、2014年2月
 25. 「『原子力平和利用』と岸信介の核政策思想」『経営情報研究』第22巻第2号、摂南大学、2015年2月
 26. 「近代徳島の農業—藍の衰退と農産物供給基地への転換—(大会特集「地力」と地域社会：徳島発展の歴史的基盤、問題提起)」『地方史研究』第67巻第4号、2017年8月
 27. 「地域民間芸能の観光資源化と地域振興—阿波踊りの事例から—」『経営情報研究』第26巻第2号、摂南大学、2018年2月
 28. 「『大阪土地建物会社』に関する一考察—戦前期日本経済研究の再考—」『経営情報研究』第28巻第1・2号、摂南大学、2021年2月(本号)

書評

1. 「庄司俊作著『近代日本農村社会の展開—国家と農村』」『日本史研究』第360号、1992年8月
2. 「大門正克著『近代日本と農村社会—農村世界の変容と国家』」『日本史研究』第401号、1996年1月
3. 「大栗行昭著『日本地主制の展開と構造』」『日本史研究』第433号、1998年9月

4. 「産業革命研究の方法論と地域民衆生活—神立春樹著『明治期の庶民生活の諸相』を読む—」『岡山大学経済学会雑誌』第32巻第1号、2000年6月
5. 「書評と紹介：松田忍『系統農会と近代日本：一九〇〇～一九四三年』」『日本歴史』第787号、吉川弘文館、2013年12月

事典

1. 『角川日本地名大辞典 36 徳島県』角川書店、1986年12月〔地誌編「徳島市、小松島市、池田町、三好町」及び「用水」の項目執筆〕
2. ふるさと徳島編集委員会編『ふるさと徳島』徳島市市民生活課、1988年3月〔鉄道の開通、電気・ガス事業、慶應義塾徳島分校、阿波紡績の発展、阿波しじらの創始者達、製藍伝習所、製薬業など徳島市行政区域の近現代史関連事項42項目執筆〕
3. 『徳島県人名事典 別冊 徳島県歴史人物鑑』徳島新聞社、1994年6月〔経済・産業、社会運動関係の徳島県人について執筆〕
4. 『近代日本社会運動史人物大事典（本文・4分冊、索引1冊）』日外アソシエーツ株式会社、1996年1月〔徳島・愛媛両県の農民運動家、阿部五郎他15名を執筆〕
5. 地方史研究協議会編『地方史事典』弘文堂、1997年4月〔農民運動と協調組合〕
6. とくしま地域政策研究所編『吉野川事典』農山漁村文化協会、1999年3月〔藍商西野家、阿波国共同汽船、阿波和紙など14項目執筆〕
7. 『郷土歴史大事典 徳島県の地名』平凡社、2000年2月〔総論、近現代（徳島市、阿南市、小松島市、鳴門市、板野郡、阿波郡、麻植郡、勝浦郡、海部郡、那賀郡）〕
8. 『瀬戸内海事典』南々社、2007年12月〔被服—藍・綿工業からジーンズまで〕
9. 『郷土史大系 生産・流通（上）』朝倉書店、2020年10月〔藍〕

口頭発表

1. 「戦間期における中国地方の電気事業」社会経済史学会中国四国部会 昭和53年度大会（広島経済大学）1978年10月
2. 「両大戦間期の徳島県の小作争議—『協調体制論』との関係において—」社会経済史学会中国四国部会 1985年度大会（香川大学）1985年11月
3. 「徳島県における協調組合の成立と展開」社会経済史学会中国四国部会 平成元年度大会（鳥取県立博物館）1989年10月
4. 「協調組合の成立と展開—徳島県の事例を中心として—」社会経済史学会九州部会10月例会（九州大学）1990年11月
5. 「安川・松本財閥における労資協調経営—安川敬一郎の経営理念を中心として—」社会経済史学会中国四国部会1992年度大会（広島大学）1992年11月
6. 「戦間期における農村・農民の組織化—協調組合と出荷組合—」経営史学会西日本部会（九州産業大学）1994年7月
7. 「九州出漁と半島漁民—徳島県那賀郡椿泊の以西底曳網出漁を中心に—」地方史研究協

議会大会共通論題研究報告(きのくに志学館、和歌山市)1995年10月

8. 「戦間期における農村・農民の組織化—徳島県の小作争議の展開と協調組合—」社会経済史学会第65回全国大会(九州大学)1996年5月
9. 「安川敬一郎の経営理念と明治鉱業信和会」社会経済史学会関西西部会(大阪学院大学)1996年6月
10. 「戦間期における労使協調経営」広島史学研究会大会(広島大学)1996年10月
11. 「戦間期における農村の組織化—協調組合と出荷組合—」関西農業史研究会(同志社大学)1997年2月
12. 「蜂須賀農場と徳島(北海道の開拓と徳島県人)」徳島県立文書館シンポジウム(徳島県立文化の森21世紀館、徳島市)1999年3月
13. 「戦間期の農民運動—四国における展開—」徳島地方史研究会第23回公開研究大会(徳島県立文化の森21世紀館、徳島市)2000年2月
14. 「農村・農民の組織化と情報—両大戦間期における農会の戦略にそくして—」日本情報社会学会関西西部会(大阪大学)2000年3月
15. 「移住者の企業家への成長と同郷集団」社会経済史学会中国四国部会平成15年度大会(松山大学)2003年11月
16. 「移住者の企業家への成長と同郷集団—興産社・阿部興人と蜂須賀茂韶を中心に—」経営史学会第40回全国大会(弘前大学)2004年10月
17. 「明治期における企業家の形成と人的ネットワーク—興産社・阿部興人の事例を中心に—」日本経営学会関西西部会第545回例会(摂南大学)2006年11月
18. 「明治期における企業家の形成と人的ネットワーク」日本経営学会第81回大会(追手門学院大学)2007年9月
19. 「徳島県の近代化—その特質—」全国史跡整備市町村協議会徳島県支部第2回研修会(招待講演)(徳島県藍住町)2008年2月
20. 「革新官僚・岸信介と『満洲国』研究動向と課題」社会経済史学会中国四国部会2008年度大会(高知大学)2008年12月
21. 「1930年代における農家副業の展開と農村女性の組織化—那賀郡の藁工品生産と『愛農婦人会』を中心に—」徳島地方史研究会第32回公開研究大会(徳島県立21世紀館、徳島市)2009年2月
22. 「革新官僚・岸信介の経済思想と行動—『満洲経営』『自動車産業政策』との関わりを中心に—」社会経済史学会第78回全国大会(東洋大学)2009年9月
23. 「戦時体制の進展と徳島の農村女性」第4回四国地域史研究連絡協議会徳島大会(徳島県立21世紀館)2010年7月
24. 「戦間期における農村女性の組織化—徳島県那賀郡の藁工品生産と『愛農婦人会』を中心に—」社会経済史学会中国四国部会2010年度大会(広島修道大学)2010年11月
25. 「地域工業開発から『地域ブランド』開発へ」社会経済史学会中国四国部会2013年度大会(鳥取市とりぎん文化会館)2013年12月

26. 「問題提起：(パネル報告) 民間芸能の発展と地域の経済社会—徳島の事例を中心に—」社会経済史学会 2015 年度全国大会 (早稲田大学) 2015 年 5 月
27. 「鳴門・由良要塞について」鳴門の渦潮学術調査委員会 (鳴門市うずしお会館) 2018 年 2 月
28. 「観光地の形成とメディア」社会経済史学会中国四国部会 2018 年度大会 (広島大学) 2018 年 12 月
29. 「徳島における花街と芸妓・娼妓」社会経済史学会中国四国部会 2019 年度大会 (島根県松江市労働会館) 2019 年 11 月

雑誌・新聞記事・その他

1. 「阿波の糖業」『徳島経済』第 18 号、財団法人徳島経済研究所、1989 年 9 月
2. 「伝統的な砂糖作り！」『子供の科学』第 542 号、誠文堂新光社、1981 年 6 月
3. 「魚沸く荒海への飛翔—以西底曳網漁業経営の展開と阿波の先駆者— (上) (下)」『徳島経済』第 41・42 号、徳島経済研究所、1995 年 6 月・9 月
4. 「地方史研究の現状 (徳島県) 近・現代」『日本歴史』第 583 号、吉川弘文館、1996 年 12 月
5. 「藍・藍業史研究の現状と課題—阿波藍を中心に—」『社会経済史学会中国四国部会会報』第 31 号、同事務局、2007 年 2 月
6. 「那賀郡の薬工品生産」『徳島新聞』2009 年 2 月 21 日
7. 「徳島の農村女性 (戦争と地域社会・四国シンボを前に)」『徳島新聞』2010 年 7 月 19 日
8. 「高度経済成長を支えた満洲国の遺産」『歴史読本』第 58 巻第 8 号、中経出版、2013 年 8 月
9. 「地域観光の歴史的研究について」『社会経済史学会中国四国部会会報』第 55 号、同事務局、2019 年 2 月
10. 「徳島における花街と芸娼妓」『社会経済史学会中国四国部会会報』第 57 号、同事務局、2020 年 2 月
11. 「阿波・徳島の生活文化 花街と阿波踊り」『徳島新聞』2020 年 2 月 27 日

研究経費交付

1. 科研費基盤研究 (C) (2) 平成 9～11 年度 (1997～1999 年度) 日本学術振興会、「戦間期における農産物市場争奪競争の展開—府県農会の市場対応と農村社会の変容—」研究代表者
2. 科研費基盤研究 (C) (2) 平成 12～14 年度 (2000～2003 年度) 日本学術振興会、「社会の歴史的変動とエトスの関係についての研究」研究分担者
3. 科研費基盤研究 (C) (2) 平成 12～14 年度 (2000～2003 年度) 日本学術振興会、「移住者の企業家への成長と同郷集団」研究代表者